

住まいのカタチ、暮らしのカタチ。



リノベーションの面白さのひとつは「制約をいかにクリアするか」ということ。建築年数もわからないほど古いこの家と向き合って一番最初に思ったことは「白く塗る」ということだった。使われている材料も良いものではなかったしはつきり言って制約だらけの物件だったけど、建物が持つプラスとマイナスをフラットにして空間に一体感を生み出すためには「白くする」ということがたくさんさんの制約を「暮らす楽しさ」に変換する方法だった。

建物が良いもので、そもそも直す価値のある家はもちろんのこと、僕の家のように古くて制約だらけの家でもどうか直して住みたいという強い動機もリノベーションならではのポイントかもしれない。「なぜ直すのか」という問いの答えには、その人が何を大切に生きているか、ということが知らず知らず隠れている場合も多いし、制約にへこたれず建物への愛着を貫く施主のガッツに心を動かされることもたびたびある。僕はと言えば、西部地区という「場所」に愛着があつてこの中古物件のリノベーションに踏み切った。

教会の鐘の音が聞こえて、街灯が美しい光として輝いて、観光客の楽しそうな散策風景が日



常的に通り過ぎる。この場所だからこそ、のよい空気があつて自然と楽しくなれる場所だ。住み始めて4年、建物の一体感を生み出すために「白」を使ったこの家は、この街の歴史ある坂道にもほどよく馴染めてきたようで昨年の函館市都市景観賞に選んでいただいた。制約とまっすぐに向き合う事で、この場所の風景のひとつになったことをとても嬉しく思っている。



before



写真左 / リビング改装前 写真右 / 事務所改装前